

京交山岳部報

No. 428

'88 6月号

〔第1686回例会〕 辰歳シリーズ(第4回) 奈良 吉野

龍門岳(I) $\Delta 904.3$
日 時 6月12日(日) 集合 壬生 AM7:00
コ ー ス 京都一桜井一三津・龍門岳…往路下山
担 当 者 大槻雅弘(TEL 722)
備 考 申込〆切日 6月10日 費用 1,500円
その他 4月29日例会予定でしたが、雨のため延期しました。

〔第1692回例会〕 万葉の山

吉 野 山
日 時 6月19日(日) 集合 近鉄京都駅2番線 AM7:30
コ ー ス 京都一橿原神宮前一大和上市一宮滝…上千本…奥千本…蔵王堂…吉野
一橿原神宮前一京都
担 当 者 本局 井上一夫(TEL 875)
備 考 近鉄 大和上市までの乗車券を購入して集合して下さい。

〔第1693回例会〕

伊那佐山 $\Delta 637.2m$
日 時 6月26日(日) 集合 近鉄京都駅 AM7:00
近鉄電車7時17分急行に乗車します。
コ ー ス 近鉄京都駅一はいばら一バス峠方…伊那佐山 $\Delta 637.2m$
担 当 者 大倉寛治郎(TEL 642-4332) 事業用 3370~2
備 考 申込〆切日 6月24日 まで。費用 実費

今月の集会

インドア 「沢登り技術と用具」 大槻雅弘
6月10日(金) PM6:30 厚生会館4F 大教室

7月の集会

インドア「観天望気」

鷺見敏一

7月11日(月)

PM6:30

厚生会館4F 大教室

企画運営委員会

6月20日(月)

PM6:00

厚生会館4F 大教室



C I

岡田茂久

Corporate Identity の頭文字の略である。いろんな企業などで固定化された古いイメージを払拭するため、社名をモダンな横文字に替えてイメージアップを計ったり、社員の企業意識を高めるため事業部制の導入等の組織改正を計ったりすることであり、最近、下界ではおおはやりである。大きな企業でもカメラの小西六がコニカに、みんな毎朝お世話になっている物(大じまや物持ちのいい人は別)のメーカー伊那陶器がINAX、ハム無線機メーカーの井上電気がICOM等々。CIで成功したものと失敗してしまったものもあるが、INAXやICOMのブランドは、何となく朝もスムーズに開通し電波も良く飛ぶ気がするものである。

最近、山岳連盟傘下の山岳会やクラブ、かつてはヒマラヤや厳冬期の日本アルプスに数々の記録を残してきた大学山岳部でも、深刻な会員不足や部員不足に悩んでいる。

山岳会では集まってくるのは中高年ばかり(すみません。私も中高年の部類です。念のため)。

大学山岳部にいたっては、あの京大でも20人余、京都女子大は4人、仏教大では名だけで名簿も無しという。国体山岳部門でも各県で選手集めがまず一番の問題、頭が痛いと思うことも珍しくない。

我々が登山を始めた頃は「山屋」は汚れダンディをきめこみ、ビッケルをザックに落とし差しにして、「氷壁」「白きたおやかな峰」の主人公をきどり、なんとなく格好良かったものである。

それがいまや「山屋」というと今の若者にとっては、むさくるしく・内向的で暗い・ださい、というイメージにかわってしまった。大自然の魅力よりも世の中にはそんなしんどいことなどせずとももっと面白いことがある。軽快にコートで踊るテニスマ、ワンレングスの髪をスピードになびかせるナナハンの魅力には、とても抗し難たいものとなってしまったのである。

我、京交山岳部も例にもれず平均年齢は50才を優に越し、OB連の活躍が目立つばかり、ほんとうに、我々も若者を山に呼び戻すため「CI」を真剣に考えてねばならない時ではないだろうか。それも山岳部の名称を替えることぐらいでイメージチェンジが計れるとはとても思えない。

機構改革を含め根本的に体質を改善する必要がある。まず組織という枠で縛ることなく、若い人

たちが自由に発言でき、自由に活動できる山岳部とすることではないだろうか。

そこから古い頭からは生まれにくいユニークな企画が生まれ、はじめて「UI。ここでは「クラブ・アイデンティティ」が成功するのである。私を含めリーダー陣はまだ現役ではあるが、次の世代のためその舞台を早急に設定するのが責務といえるのではないだろうか。

‘三陽社、さん長い間御世話になりました。

京交山岳部報の印刷を永年にわたり依頼してきました「三陽社。野崎さんが、今月かぎりで廃業されることになりました。以前からこの趣旨は部のほうに申し出されていたのですが、いままでもなんとか無理をお願いしてきたものです。

昭和35年2月の部報88号以来、読み難くて種々雑多な我々の原稿を、見事に部報の体裁に仕上げた努力は感謝にたえません。今日、部報428号まで発行できたのは、ひとえに野崎さんのお陰といっても過言ではないでしょう。

どうか、今後とも御身体を大切に。長い間有難うございました。

*部報の発行は山岳部活動の根幹ともいえます。発行を休むわけにはいきません。

来月からは装いも新たに、新規契約した印刷所からの部報を皆さんにお届けします。

ご期待下さい。

第1682回例会

近藤 薫氏喜寿奉祝

金剛山供奉記

津 田 実

過日、河村先輩から近藤親分(失礼、これは近藤氏のニックネームでその語源は不祥)が喜寿にられるので、お祝いの山行を考えて呉れ、何んでも、本人は、金剛山え行きたいらしい。との話を持ち込まれた。

そこが先天性粗忽症の小生忽ち症状発症、ソラ、エエコッチャと河村氏の言葉にコロッと乗せられ、企画運営委員会に提案したところ、京交山岳部創設の功労者、初代山岳部長、京都山岳連盟自然保護委員、厚生省より、自然保護に功ありと、表彰を受ける程の大人物、もとより反対なぞあるはずもなく、異議なく決行とあいなった次第、ところがどこで、どう間違ったのか、いつの間にか小生が担当になっていた。

うちのオバハン宣う、お父ちゃん喜寿でなんや? そらお前七十七になったお祝いやないか、

なんで喜寿で言うのんや? そんなこと知らんのんか、知らんサカイ聞いてるんやないかいな、ソラお前、絶句”お父ちゃんも知らんのんやろ、

そこで慌てて埃の海で惰眠を貪っていた辞書を敲き起こして教示を受ける。

辞書氏曰く、喜寿とは、七十七の祝賀(喜の字の草体「喜」と読まれるからと云う)とのこと。こんな、めでたいことはない。次いでに金剛山についてはどうか。これについては、近藤大先達の

達筆に委ね、拙筆はご遠慮申し上げます。

1988年4月3日AM7:00 壬生厚生会館前に集結した精鋭諸兄姉、総数30余名、軸轆杖
杖堂々の出発と相成りました。途中で更に一隻供奉を加え一路河内の国えとまっしぐら。登山口で
愚図々々しているうちに皆さんサッサと登って仕舞われ、気が付いたら小生一匹置いてけぼりとな
る始末、コラアカンと慌ててそこらに散らばっている荷物をザックに放り込み後を追う。

先づ目前に出現したのは急ななが一石段道、これは老骨えの瀬踏みを金剛山がしているものと
解し、こんなに負けてたまるかと力んで歩きだす。

どうも先頭と離れていると心理的に負担が大きい頑張って先頭集団に追い付いた途端に一服やと
の声、アアシンド。

今日は、先日来の寒波が緩み大変暖かい晴天になった関係上、冬山装備では歩きづらい、軽い服
装に変えている人もあった。

コースは、正面登山道を歩いているらしい、と言うのは仕事の関係から予備知識を仕入れる暇も
なく、ぶっつけ本番となってどこをどう歩いているのやら全く判らず、地図は持ってはいるけれど見
る暇もない始末こんな忙しい山行きは小生の記憶には無い、なんでも急坂や溝のなかをしゃむにむ
むに歩いているうちに、葛木神社の境内に出て仕舞ったと言うのが正直なところです。

そこには、売店があって大勢の人々が休んでいられた、我々も一本立てることとなる。付近に金
剛山、登山数100回以上とか、なかでも1000回以上という剛の者の氏名が張りだされている
のには傍いた、余程の手練れ者とお見受けする。神前で近藤氏がうやうやしく拝礼されているのを
待って三角点に向かう。

案内書には、金剛でもっとも高いピークは葛木神社の後方、樹林におおわれている葛木岳(1125.3
m)。次ぎは展望塔と一等三角点のある涌出岳(1112.3m)3番目は社務所の北に無線塔の建つ大
日岳(1093.3m)である。とあった、山頂からの展望は素晴らしく、大和平野、吉野、高野の連峰
も遠望出来るそうだが春霞の関係か、今一つであった。

然し、その景観に感けされることなく一大セレモニーの幕が切って落とされたのであります。

先づ岡田部長のお祝いの言葉があり、本日の主賓、近藤薫氏と金剛なる名称とのかかわりについ
て朴訥にして説得力のあるご高説をじゅんじゅんとして説かれ全員緊張のうちに拝聴。

氏の益々のご健闘を祈って乾杯、たくさんのお馳走を前に歓談の一刻を過ごしたのであります。

とるに足らぬ男と思へと言ふごとく 山に入りけき 神のごとき友

啄木歌集より

我は願う、氏の益々のご清栄と、山岳活動の充実を。

昭和63年4月

北 関 東 ~ 東 北 の 山 旅

坂 井 久 光

昨秋、秋田の福田さんから茨山の大仏は残雪期の4月下旬がよいとのアドバイスを受けたので、一等三角点研究会の例会後に訪れる計画を立てた。4/22鈍行で沼田へ行き駅前近くの朝日屋旅館で一泊。翌4/23駅前からタクシーで山麓の開拓地の牧場迄行き、林道を歩く。1km程で小峠への林道分岐、左へとり林道を歩いて終点へ。此所から支尾根を直登する跡跡を見つけ、雑木の急坂を登る。雪は消え檜・檜・ブナ等の粗林で急だが藪は無く、道は段々はっきりしてきて一汗かく頃前山のピークへ。尾根も覆せて来て小さな上り下りの末、山頂十二神碑の立つ山頂へ。一等三角点はその前にあり、晴天で岩上に登れば360°の展望、東に赤城山、北に谷川岳等上越国境の山山、南に礪名山、西に明日例会で登る高田山始め、浅間山や信州の山岳が重疊として眺められた。南からの良い道も上ってきており、北へ小峠からの道も上っていた。少時休憩して小峠コースへ下山。始めはゆるいキャトや笹や藪木の尾根道だったが、東へ曲ってからは急なジグザクの坂道となり、日影に残雪が多く、角の無線塔の林道へ出た。道を横切り山道の尾根筋を下った。暫く快適な下りとその先谷へ45°程の急坂となり倒れぬように要心して一気に百米以上標高を下げた。谷へ下ると間もなく林道に出て、その先1km程で小峠林道の分岐に出た。今朝通った道と再会したわけだ。21km程下って開拓地の先で保険屋の婆さんの車に拾はれ、沼田の国道分岐迄ヒッチ出来た。旅館に戻り預けた荷物を受取り中之条へ。

渋川で乗換えて、中之条下車。バスの^{サワタリ}沢渡温泉が待っていてそれに乗り、終点の手前で下車すると集合地の宮田屋旅館のすぐ前であった。未だ2時前なので誰も先客なく独り部屋に入り一休みして入浴して汗を流した。無色透明の温泉で美肌の効が多いとのこと。

やがて次々と会員がバスや車で到着。速く和歌山の玉岡一行や、常連の浜松の2人や末国さん、長岡の矢尾根夫妻も見え最後に尼ヶ崎から寺田老が遅参して総員15名。此の旅館の知合いの塩沢さんからの差入れや玉岡さんの原酒大平洋と2升の酒に京都の佐藤老の差入れの金一封で盛大な酒宴が始まり、食べ切れぬ料理が運ばれ、歓を登して各自部屋に帰って翌日に備へた。

翌24日 一同が旅館の車と3台に分乗して上反下から四万温泉への林道を走り、峠で駐車して一同高田山1,212mへ。始めは良い道でハイキング気分に登ったが、山頂附近は急崖の瘦尾根で難場もあり一同用心して登った。山頂は小広く周囲の林の為360°とはいかないが、展望良好。西に浅間連山の雪嶺、北にも上越の山々が白く輝き小鳥の声も聞え一同ゆっくり休んで、玉岡さんのコーヒーや皆の嗜好品の交換や久しぶりの会員同志の語り合いに時を過し、下山。峠から乗れるだけ乗り、私と矢尾根夫妻3人がのんびり四万へ林道を下った。途中岡田が車で迎へてくれ、四万温泉へ。入浴して汗を流しそばを喰べて中之条へ送って頂き解散。私は大宮迄引返し、夜行で4/

25 秋田へ。秋田に着き福田に電話すると入院中とのこと。吃驚したが、私が早く出た為連絡がとれなかったらしい。駅で夫人と合い土産を渡し昨年の礼を述べアドバイスを受け、鷹の巣から陸中鉄道に乗換へて阿仁合へ。駅前旅館で荷を置き役場でJ A U加賀谷氏と会い姫ヶ岳の地図を頂き、車で吉田農村公園の池畔へ。此所から林道を2kmばかり歩いて登山口の終点の渡河点へ。

川を渡って道が川のようになった処を登って川を高巻き、又、川へ下って渡り山道を辿った。登るにつれて残雪があり支尾根をジグザグに登って稜線に出て尾根をからんで登ると残雪豊かな姫ヶ岳が見えた。山頂直下は可成り急坂で登ると大平山の石碑や小祠があり三角点は1m程の残雪の下であった。小憩後下山。林道の分岐で下山の車に拾われ阿仁合迄送って頂いた。

翌4/26 湯瀬温泉へ行つて一泊。途中陸中鉄道の沿線は一輪草やアヅマー華、水芭蕉のカタクリの花盛りであった。

翌27日 兄畑で下車。長い林道を歩いて林道終点から渡渉して高倉山1,051m(1△)を目指した。残雪にかくれた山道を登ると日当りの良い伐採跡に出て前山へ登った。此の先道は消えたが尾根筋を辿ると踏跡が現れ、残雪も多くなりブナの林間を処々根曲竹を漕いで登った。ピークに達し地図を見当して左のピークへ一旦コルに下って急坂を登った。山頂一帯は残雪に覆われ、三角点は埋まっていた。

展望は北や東に開け、西や南も林間から遠望出来た。鷹の荷を預けた家の老人の話では館市から川沿いの車道を南へ入り高倉沢へ現在林道が営林署に依り奥へ入っているから、そこからの方が登り易いと聞いたが遠回りなので残雪期なら登れると思って登った。

小憩後中央のピークより前山へ行きその手前谷からの道があったのでそれを下った。谷間は一面の残雪で道は消えたがどンドン雪の谷間を下り、下流で渡渉して林道終点へ着き一休み。途中屋敷沢で一休みして兄畑へ。

駅で時間をつぶして田山へ行き駅前の山専旅館に一泊。翌4/28、7:30車で出発。林道終点の手前残雪なら伐木の山で下車、暫く歩くと6.5kmの標柱、左に林道が分れるも戻りぎみの為、先へ進んだ。よく橋や附近を調べるべきだった。此所が四角岳林道分岐で雪がなかったらその先の終点迄車で入れたのであった。真直ぐ林道をつめると右に林道が分れていた。左も間もなく終点となり谷川沿いの道を辿る。少し登ると伐採跡の台地に出て前方に四角岳の稜線が見えて来た。残雪の小谷をトラバースして稜線のコルに登った。ブナ林の緩い登りで前方にピークが見えた。登ると先に平坦な大きな山が見え、一旦下って又登ったが、処々雪が消え赤実の犬ツゲや笹が出て少し難儀した。前方に中岳が聳えて見える。一旦コルに下り急坂を登ると山頂で一等三角点の横に癸卯天明三年七月天利日と刻んだ石碑(祠)があった。

下りは四角鉾山跡へコルから下り道を見付けて下ったが、谷で消え後はずっと谷を下り高巻をくり返して林道終点へ。その先営林署の車が入って作業していた。もう少し遅く出たら此所迄車で来たののと思つて長い林道を歩いて駅前旅館に帰り、汽車で盛岡へ行き一泊。

翌4/29 仙台から山形へ出て赤湯の齊藤を訪れ、車で白川ダム奥の飯森山北麓の登山口小屋の渡部老(68才)宅へ車で案内され彼と共に一泊。渡部さんは今独身で農業の傍、獅子頭を彫刻して

おり、東日本各地からの依頼に応じて黙々と彫ったり、彫上った作品の下塗りをしておられた。翌30日は雨で林道終点へ行ったが、雨と雪融けで大増水で登山は無理と引返した。一日渡部さんと語り合ったり前山溪社長の川崎さんを案内した手紙を拝見したり戦友と云う3万円の懐しい軍隊の歴史戦友の消息の本を見せて頂いて過し日の回顧に暫し亡き戦友を忍び冥福を祈り、みじめなシベリヤ抑留生活をしのいだ。

5/1 朝から快晴で6時出発。林道をつめ、天照大神の小祠の登山にから杉の植林の支尾根を登る。残雪が多く急坂をジグザグを交へて登り稜線との交叉、御室へひたすら登った。やがて一汗二汗かく頃、檜の大木の立つなだらかな尾根に登り、暫く快適だったが、又、一段の急坂を登って御室へ。一休みして袖峰へ登るも三角点は雪の下で、稜線へ近道して谷へ一旦下り、急坂を登って御室より飯森への稜線に出た。此所より先は急坂で残雪の壁をけり込んで一歩ずつ登って山頂へ。一等三角点の保護杭が一本出ていたが、三角点はべっとり厚い残雪の中、360°の展望で、北に飯豊の銀峰が輝き、東に袖峰、南に鉢伏山に連る下山尾根の山々が見渡せた。暫く休んで地図を見て鉢伏山へ下山、日中～喜多方へ向った。鉢伏山迄は残雪が多く藪の心配はなかったが、その先の瘦尾根では雪が消え落ちて五葉松・赤実のツグ・根曲竹が出てくる。木に登ったり藪を踏んで倒して用心して急崖を下ったりトラバースしたりして下ったが、雪で道が消えて早く尾根を下って手前の分岐を下った。大部下って気がついたが疲れて戻る元気はなく、残雪の小谷を下り飯森沢の谷道に出た。

谷川は雪融けと一昨日来の雨の濁流轟々として流れていた。右岸沿いに下れば夕刻迄に日中に出れると思ったが、途中新国道の橋が見える小谷の出合で橋がなく、小谷を小1km上流へ上り、雪崩の跡のスノーブリッジを見付けて対岸へ渡り、急坂を登ってトラバースして下りやっと橋に出たが、その道はすぐに行止り下の小道を辿ったが、下らず逆に高巻いて登り、やっと下りになって川に出ると橋が又も落ちて対岸へは渡れず、日が暮れて来て戻ってヘッドランプをつけたがその時気圧計がザックからこぼれ落ち谷間へ、少し谷を下ってさがしたが見付からず断念した。斉藤氏からの差入れの団子を喰べて一休みして急崖の愛場を高巻いて下った。大した藪はなかったが、夜のトラバースは時間がかゝり気のついた時は時計もなかった。

難儀の末、下に新設国道の道を月明りに見付けて急崖の崖崩予防の金網を伝って道路へ無事到着。それから1km程の長い新設のトンネルをくぐったり、ひたすら歩いて2号トンネル工事現場の夜間作業場の手前で旧林道と出合い、ひたすら長い林道を歩いてダム工事の日中へ。食料店で車を呼んで頂き喜多方へ行き終列車で若松へ行きサウナで一泊。翌2日、郡山から新幹線で上野乗換え、夕刻無事帰宅した。

[コース・タイム]

4/22 沼田駅前泊り、 4/23 7:33 出発—7:45 開拓地牧場…8:16 林道終点…8:52
前山…9:13～9:23 子持山…9:58 林道分岐…10:08～10:13 小峠…10:23～10:25
開拓牧場ヒッチ…10:40 国道分岐…10:50～11:06 沼田…11:27～12:13 渋川…12:38
～12:42 中之条…13:03 沢渡温泉(泊)

- 4/24 7:30 7:50～8:00 コル…9:20～10:50 高田山…12:20～13:00 四万温泉…13:30
～13:50 中之条…17:00～22:50 大宮
- 4/25 8:53～10:24 秋田—11:37～13:06 鷹の巣—14:04～14:20 阿仁合—14:36 吉田農
林池公園…15:02 林道分岐…15:07 林道終点…15:21 谷の出合…16:02～16:05…
稜線…16:48～16:50 姫ヶ岳…17:14～17:15 稜線…17:50 林道…18:02 ヒッチ…
18:06 吉田公園—18:18 阿仁合
- 4/26 9:16 出発—10:12～11:36 鷹の巣—11:53～12:42 大館—13:38～14:44 花輪—
14:57 湯瀨温泉(泊)
- 4/27 7:58 出発—8:02 兄畑…8:35～8:40 佐比内…9:55～10:00 林道終点…10:35～
10:40 前山…11:23～11:30 中央峰…11:50～12:00 高倉山…12:35 コル…13:10
～13:15 林道終点…13:44～14:04 屋敷沢出合…14:45 佐比内…15:15～17:04
兄畑—17:12 田山(泊)
- 4/28 7:30 出発—7:50 下車…7:54 6.5 km…8:37～8:40 林道終点…9:50 前山…10:25
四角岳…10:50～11:00 中岳 1,024 m Δ…12:25～12:30 谷へ下ル…13:30～13:40
植林地…14:02～14:07 林道終点(四角)…14:26 四角橋 6.5 km 林道分岐…16:01
切通林道始点…16:40～17:12 田山—18:52 盛岡
- 4/29 8:23 盛岡—8:56～9:40 花巻—10:37～10:54 一の関—12:37～13:08 仙台—14:35
～14:56 山形—15:40～15:58 赤湯—18:50 小屋(泊)
- 4/30 雨の為泊り。
- 5/1 5:56 出発…7:09～7:21 林道終点…9:25～9:30 大櫓…10:33～10:40 境界標…
10:50 御室…11:26～11:40 柚峰…12:15 稜線…13:26～13:40 飯森山 Δ…14:10
鉢伏山…21:40～21:47 日中…22:00～22:26 喜多方—22:43 若松(泊)
- 5/2 6:17 出発—7:39～7:57 郡山—上野 9:10～9:27 一京都 18:50

四月の山行

伊藤潤治

4月16日、シコの谷頭 Δ 848 m (長浜) この Δ は探し難いと部報第248号が伝へるように、それらしき地点に測量棒はあれど Δ 不明。探索は、我と思われる猛者に功を譲るべく下山。

4月17日、養老山 Δ 859 m (津島)

大垣在住の岳友がリハビリ満10ケ年を迎えた。その岳友を支えられたご家族と、その名も老いを養うと喜ばしき一等 Δ を囲み、当然快晴を恵まれ、ご健闘を賛え刻を忘れて、向後を激励する。

その帰途、横山 Δ 312 m (長浜)

山東町と長浜市界の横山城跡。山東町、観音寺コースによった。眺望、伊吹山・竹生島が佳い。
『近江の山々に臥龍山の名が見え、極く小粒だが辰年の仲間入りをさせた。』

メンバー 河村 清、吉村比佐、高木志茂子、伊藤潤治

4月24日、 峰山△871m(谷汲)、 椿谷ノ上・881m(美濃)。

近頃これほどお見それいたし、手古摺った山は珍らしい。明神クラソ△1023m(能郷白山)から見初め登路もあった。けれど昨秋は円原からと迫ヶ谷から、今冬も迫ヶ谷と通わされる。急峻で山稜には顕著ないくつもの峰頭がならび、石灰露岩のさまざまなる奇観を全山に見る。植林も灌木林も美しい。眺望も諸所に展開するなかなか好趣の山である。

まあ、四度目にして、カタクリの花盛りに迎えられて念願成就。余勢を馳って椿谷ノ上にも縦走。祝着至極でござりました。

メンバー 国枝武喜、藤井義雄、水野美代子、伊藤潤治

1988.4.29

鴨瀬谷山登頂報告

津 田 実

今日は、龍シリーズで奈良の龍門岳え行くので山靴の紐を結んでいると突然ケタタマシイ電話のベル何事と折角結んだ紐を解いて受話器を取ると、今日の山行担当者大槻副部長より悪天候の為、龍門岳は中止するとのこと。

何も天気の悪いのは急になったわけやない昨日から承知のこと、彼の如きベテラン登山家が小雨を理由に中止とは何事、そもそも誰の企画かと、中止決定後渋る大槻氏を半ば強引に説き伏せ、奈良から北山へ方向転換、過日行き損じた鴨瀬谷山え行くことになった次第。

これには、昨夜遅く迄かかって弁当を作ってくれたオバハンの手前、山エイカヘンと言うたら後のタタリが恐ろしい、オバハンには内証で部員の皆さんにソツトいいますが。

閑 話 休 題

通い慣れた周山街道を井戸から小塩え更に西ノ谷えと快走、コシキ峠の標識を見違え一つ手前の谷に入ってバックのオマケ付きで目的の奥付谷取付き点に到着、全員雨具を付けゴム長靴、大槻さんは、流石登山家ゴム長を潔よしとせず山靴で出発。

駐車地点から林道を谷沿いに少し行くと林道はすぐに終わり、どうも先程左手に見えた谷え入るらしい、古びた熊の檻のある所から谷に降り杉林の中に微かに残る踏跡らしきものを大槻さんを先頭に歩く、小径は谷を離れ尾根に続いていくらしくとどろき歩いていると、突然尾根に出て立派な道が現れた、三橋さんが八丁大道だと教えてくれた。

八 丁 大 道 (おおみち)

北山クラブの故金久昌業氏は次のように書かれている。

この道は八丁が驛村になる以前、昔から周山え、また京都へ行くのに一番よく使われた道で、この大道はワイドロードの意味でなく、メインストリートの意味である。

この道は鴨瀬谷を1km余り入った所から右側の山に取り付き尾根に出る。この尾根を北上し△778の東の肩を巻いてコシキ峠に至り、それから北に八丁川に下りたら、対岸から流入するトチャナギ谷に入る、この谷をつめて途中から右側の尾根を越して八丁に入る。この尾根を越す峠をトラゴシ峠という。と書かれている。

書物では承知していても見参するのは初めてで、かって八丁の人々の哀歎を一途に背負って来たこの大道も歴史の変遷と共に自然に帰えっていくのであろう。

その大道を鴨瀬谷山えと歩を進める、流石昔日の大道、ところどころ崩落しているが少し手入れをすれば立派に立ち直ってくれるであろう。

然し下手に手を入れて無理難題な人々に荒らされるよりはこの儘自然に帰えってくれる方を願う、八丁の土蔵のように。

そのような感傷に耽っているうちに大道と別れ右に尾根を登り今来た道を少し戻るように行くと鴨瀬谷山△778mにでた。

そこは少し広がっていて西陣山岳会の登頂記念板が吊してあった。本来ならば此所でセレモニーを行うのであるが、お昼ご飯には少し時間が早いのでコシキ峠まで足を延ばすことになる。

三角点から東の方えよい小道に誘われてどんどん下りていくと小さなコルがありその付近で踏跡消失、小生は左の方え径を探しに行ったが判然とせず、地図を片手に鳩首協議右のコルえと向かう。

左え下りると八丁川え出て仕舞っていたところだった、いつも地図を読む習性を身に付けておくべきだ。大槻さんを先頭に前方に見えるコルを目当てに進んでいくと突然青いテープを発見その下に八丁大道が出現した、コシキ峠はすぐだった。

昔、八丁川を筏に組んで流してきた材木を峠の下で止め、肩にかついでこの峠を越し西谷に落とし、小塩川を大堰川え嵯峨まで流したと金久氏は書かれているが、重い材木を肩にこの峠を越えられた先人の苦勞が忍ばれる峠である。

峠を少し下り八丁川よりのところに適当な場所を見付けお昼ご飯にする。悪天候の為、予定を変更したとはゆえ、余りよい天気とはいえない、うすら寒い日に木々に風を避けて震えながらも山がよいという酔狂者4人、他の人から見れば奇人、変人としか思えないであろう。

然し、そこには難解な人間関係に束縛されない自由な自然がある。

雲が描く絵があり、 谷川のセセラギがある。
梢を渡る風がある、 自然が奏でるハーモニーがある。
それは、 絵であり、 音楽であり、 詩である。
そして私の心の友であり、 教師である。
故に私は山を愛し山を歩く。 北山万歳、 岳人万歳

第1686回例会 辰歳シリーズ 龍門岳 は延期として
後日、例会を組み決行しますので よろしく

〔同行者〕 大槻雅弘、 奥村弘信、 三橋 勉

〔コース・タイム〕 4月29日

車止 9:20…9:47 峠…10:24 △ 778 m 鴨瀬谷山 10:40…11:20 コシキ峠 12:15
…12:30 林道…12:50 車止

山 癖 雑 記 四 一

一、 愛宕山 「日本山嶽志」

伊 藤 潤 治

和知富士をお登りになって、京都はこんな名山があつてうらやましい、とお便をいただいた。わが郷土のと云える山に対してありがたきお言葉であつたが、思わず私はガツンと一撃喰つたほどの感動と共に、大切な物を忘れ去っている自分に気付く驚きを得たのである。つまり、かつて足しげく情熱に通つた最寄りの山々に魅力がなくなり近頃は、専ら美濃の山やはるかなる山々にうつを抜かして、母なる筈の郷土の山はひとつも眼中になかつたためである。しかし、図らずも和知富士をお褒め下さつたことが幸して、私は眼のウロコが落ちるやら、知足のわきまえも備わつて、向後ほこわりなく郷土の山の跋涉をいろいろ楽しみたい。

取り組みは、さしずめ稀書化の日本山嶽志から郷土の部を、わが京交山岳部報へ写経の気持で収録愛蔵することから始めさしてもらふ。山城国は二十九座、やはり五十音順に並べていきたい。

愛宕山（別称、愛宕護山、阿当護山、愛太子山、朝日峰、^{シラクラ}白雲山、嵯峨山）山城国葛野郡ノ北方ニアリ、嵯峨村大字上嵯峨ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス。標高三千四十三尺。『日本名勝記』 雄峻高聳曲盤山嶺に到る。峰頭を白雲山と云ふ。東西二州を下瞰すれば、民居樹竹歴々辯ず

可し、山上に神社あり。又山中に土盃投の戯あり。土盃を執って空中に抛ては、風に随って輕揚し、恰も飛鳥の如く、之を久うして始めて深谷に墮つ、其戯往々他処に在りと雖ども、到底此山に於てするの佳興に如かずと云ふ。「雍州府志」 山上有五嶽、朝日峰、大鷲峰、高雄山、龍王山、賀魔藏山、此山始号手白山、自移愛宕權現於斯山、改号愛宕山。「山城志」 東面坂路嵯峨、因又曰嵯峨山。

我宿はそなたを見てぞ慰むる、

誰か愛宕の山といひけん 家隆。

生たりは丹波かろす江城 浩涼

別残す山は愛宕よ冬の月 淡々

止めは降る時雨の坂や五十 存義

続いて 高井対雲、谷友信、中村敬字諸氏の漢文紀行になっているが、これと向後の長文紀行とは末尾に補遺収録するとして、ここでは省略する。

愛宕さんはわが家の西北にあって、その姿は、雄渾なる筆さばきの達人が精魂こめた鬼気迫る屏風絵の如く、感動のあまりたじろくほどの眺めである。姿はいかにも厳めしいが、小児三歳までに参拝すれば一生火難を免かれるとか、七月三十一日に参詣いたせば一千日分のご利益が授かるなど親しみ易い存在で、かつてはケーブルとスキー場があって、往復運賃金九十銭也、家を出てから二時間許りで滑れたものである。うどん、ぜんざいの佃金十銭であったか、よく通ったが若気の無造作で山日記はほとんど空白、当時が懐かしい。ちなみに愛宕ケーブルを回顧すると、認可が大正15年11月15日で、営業期間は昭和4年7月25日から昭和19年2月11日まで、の短命であった。

次に雍州府志の「雍」は「雍」の誤植と察しられる。この雍州とは山城国の別称であるが、「山上に五嶽あり」というこの五嶽は興味深い、けれども所在不明。いささか弥次馬的で輕卒ながら仮定してみた。朝日峰は、別称があるけれどもあえて、同名の $\Delta 668m$?。大鷲峰は、最高峰の地藏山 $\Delta 948m$?。高尾山は、地形図注記付近 $\Delta 429m$?。龍王山は、龍ヶ岳 $\cdot 924m$?。賀魔藏山は、これだけは「此山始号手白山、自移愛宕權現於斯山、改号愛宕山」により、紛れなく愛宕神殿の $\cdot 924m$ 峰であろう。

愛宕の名は『百科事典』に、「禰遇突知神、または火産靈神を言ひ。伊邪那美尊この神を生み給ふによりて神避り坐した、古伝説に基づいて、禰遇突知神を仇子と申したとか、或いは、熱子と唱へたとか伝えられる。「アタゴ」は即ち仇子の意である。」とあり、愛宕には、しみじみたる由來がひそんでいる。 (所要・京都西北部、五万分一図)

1988.4.7

目 録

伊 藤 潤 治

わが京交山岳部報を創刊(1952.11)号より、この2月(第424・1988)号までの記録中に「る」の山名が見られないのである。コンサイス日本山名辞典(三省堂)によれば、北海道に、ルイベツ岳、1541m。ルベシベ山、1740m、幌尻岳(夕張8)。留久山、368m 西徳富(留萌7)。ルコツ岳、532m、今金(室蘭14)。ルベシベ山、859m美瑛(旭川11) 瑠辺斯岳、659m 武佐岳(斜里2)。ルベツネ山、1727m 札内川上流(浦河1)。この7座のみ。こういう事は予測しなかったと悔んでも遅いが、白状すると実は、ルコツ岳を1979年5月31日、河村清、井上欽司、高塚ひさえのメンバーで、登ったままの未報告がある。ちなみにルコツ岳は私の念願五十音達成記念の山であり、「る」唯一の一等△でもあった。北海道といえは、今西錦司先生がよく登られていて、70座(1500山のしおり)もど登頂になっている。それに近頃は、わが京交の巨星坂井久光君が北海道を盛んに登り続けている。がまだ「る」は見当たらない。この北海道特産の「る」、北海道慣れた坂井君の駿足に期待して、京交一人じめは、どうだろう。私も1991年、後方羊蹄山の折、ルベシベ岳Ⅱ△859mを例会山行にしたい。

や…

柳生街道 石仏探勝 338。

“ 滝坂の道奥春日原始林を歩く、400。

柳生の里、笠置山 218。

薬師次小屋から折立 384。

薬師岳 191・384。

“ 雲の平・野口五郎岳・烏帽子岳、384。

屋久島 188。

“ 口永良部島の山旅 401。

“ 宮之浦岳 320。

焼杉山 236・342。

優しく迎えてくれた山 357。

夜叉妹池△986m 225。

夜叉ヶ池 98。

“ から三周ヶ岳 181・202。

弥十郎ヶ岳と半国山 332。

八ヶ岳 縦走 73・145・158。

“ 夏山登山大会 396。

“ と1986mの山 405。

“ 登頂 404。

矢頭山から鶴山・高須ノ峰・雨乞山 404。

八ッ淵と武奈ヶ岳、堂満岳 340。

“ 滝めぐり 358・361。

矢筈山と高越山 273。

蕨こぎのなかった天ヶ岳 363。

蔵山のすすめ 416。

山科の三角点 160。

山スキー初体験記 403。

大和谷から薫峰、三之公合宿を終えて 83。

大和谷より弥十兵衛谷湧行 312。

“ サポートされたサポート隊 312。

大和、竜王山 247。

山ノ神から大台辻 42。
山ノ辺の道を歩く 412。
山村さんへ 古稀、限りなく美しく 417。
槍ヶ先山 266・370。
槍、集中登山 155。
初登りの記 97。
穂高縦走 96・299・373。

二部(山声雪語・毒語伝、その他)
屋久島連峰(海上アルプス) 189。
夜叉ヶ池、その伝承と恩沢 351。
 "ブーム 325。
野生へのおたけび 324。
野草の育て方 128。
山あればこそ 198。
山男の条件 132・330。
山窓いのうた 162。
山小舎 118。
山小屋建設異聞 108。
山小屋を作りたい 100。
「やませ」に、ご用心 394。
山旅ノート、新田次郎著 217。
山での歓待 292。
山とうたい 191。
山と音楽 196。
山とスキーの分化 99。
山と伝説 222。
山と動物伝説 232。
山と雪 第144号 211。
山と雪の墓標 春日俊吉著 216。
山に登る機会 205。
山に行けない弁 212。
山の挨拶 237。
山内ビッケル 36。
山の映画会 286。

山の衛生 117。
山のお便り 375。
山の開発 97。
 "もほどほどに 222。
山の貸物屋と山での貸物屋 80。
山の語り 350。
山の行政屋(部長就任のご挨拶に代えて) 246
山の屑拾い 91。
山のグルメ 413。
山の公害 216。
 採物 116。
 詩集・エーデルワイズシリーズ(2) 187
 "写真と珍品展" 成功裡に終る 206。
 仕様 355。
 死霊(山と伝説、8) 229。
山の段級制 81。
 撤去 338。
 天気、ことわざ 410。
 動物受難記 390。
 人情断片 187。
 山のPart 2 414。
 美化運動 337。
 一人歩き 259。
 勉強 161。
 弁当をパン食に 236。
 妖怪(山と伝説) 230・231。
山の悪者・山の馬鹿 129。
山登り以前の問題 186。
山登りに思う 111。
山は同志で楽しむべきか 83。
山は喜び 300。
山への足跡 武田久吉著 218。
山へ入る心 57。
山本昭三君を偲ぶ 254。
山屋の心得 150。

やる気があれば 155。
山を、美しく 190
 買いにきたと思われた話 232。
 ますます好きになった話 174。
 求める心 6。

ゆ…

雪倉岳スキー(蓮華温泉前夜祭) 343。
雪の・愛宕山 294・306。
 石仏峠 353。
 奥比叡 352。
 奥美濃 112。
 北山 39・342・401。
 木ノ芽峠 259。
 旧花背峠、芹生 342。
 雲取山 258。
 国境尾根縦走 399。
 棧敷ヶ岳と城丹国境縦走 306。
 卒塔婆峠とタキノタニ 330。
 〃 庵村八丁 414。

雪の・鈴鹿八風峠 78。
 武奈ヶ岳 353。
 判官坂 342。
 三岳山 305。
 三峠山 353。
 箕ノ裏ヶ岳(王生さんの退職記念山行
 293。

雪野山と観音寺(織)山 160。

雪を踏む北山の峠歩き 220。

諭鶴羽山 149・247。

湯俣温泉から信濃大町へ 191。

湯俣川から高瀬溪谷 191。

由良ヶ岳 238・250・314・325

二部(山声雪語・毒語缶その他)

有志者事意成 339。

勇者 122。

有終の美を飾れず 125。

雪すべり 123。

雪山の一週間、深田久弥著 223。

油断 228。

ゆっくりズム 248。

揺れる大見総合公園計画 351。

よ…

揚梅ノ滝登攀 120。

 〃八ツ淵めぐり 207。

養老滝上刃の山 360。

養老山 232。

横山岳 63・174・250・291・400。

吉野道を山上ヶ岳へ 212。

夜泣峠 344。

 〃愛宕山 379。

ヨーロッパアルプスの山旅

 グリンデルワルト 278。

 シャモニー 277。

 ツエルマツト 279。

四局スキー大会に思う 41。

 の見どころ 65。

 のゆくえ 53。

 を顧みて 88。

48歳、厳冬期の御岳を登る 390。

46年度山岳部活動 234。

47年度 〃 246。

48年度 〃 258。

二部(山声雪語・その他)

よき時代のよきうた(詩歌) 104。

四時間三分の功罪 270。

吉野熊野国立公園保護陳情に赴いて 62。

吉野熊野国立公園だより(1957) 62。
吉野群山 夜ばなし、を聴く 62。
予備日 135。
寄せん会 131。
よみがえる心象 282。
夜型人間 422。

ら …

雷電山 119。
羅白岳 395。
羅漢山 313。
洛北奥山登山 天ヶ岳 3。

二部(山声雪語)

ライセンス 266。

り …

利尻山 383。
離島の山旅 390。
 〃 黒島樽岳 403。
リトル比良 281・350。
竜王ヶ岳(京都西北部) 145。
竜ヶ岳△1100m 284。
 〃と静ヶ岳△1089m 237。
竜王越え 90・113。
竜王山、田中定勝氏退職記念山行 236。
 〃と地獄谷峠 138。
 〃の思い出 210。
竜王山、牧さん退職記念山行 231。
竜王山△586m・巻向山△567m 422。
竜ノ付く山のこと 284。
 〃と名山、善司森山、分竜(領)山
 294。
竜頭山・竜王山・ダツヤ山・竜門山・千種山
295。

竜門山と飯盛山(粉河) 267。
 〃と社寺めぐり 281。
竜門岳・竜門山・飯盛山 281。
霊仙山 146・177。集中、289。

二部(山声雪語・その他)

リーダー、研究会(仮称)について呼びかけ
126。

選考の経過 129

団の編成について 133。

の責任 93・379。

両刃の剣 259。

竜頭蛇尾 145。

旅行会的登山 105。

る …

瑠璃溪から剣尾山 278。

れ …

霊山 247。
 と神野山 280。
霊山と高山 159。
蓮華温泉～雪倉岳 393。
 〃とスキーツアー、 415。
蓮華の湯始末記 343。

二部(山声雪語・毒語缶)

例会企画 295。

歴史の山道 192

連休に警告 163。

ろ …

6月 の八ヶ岳 69。

の山々 406。

61年度春山大会 404

69年納山祭 208
六谷山 242。
ロックガーデン 93・190。
六甲の、縦走 355。
六甲の、前衛剣谷山 33。
天狗岩南尾根から寒天山道へ 393。

二部(山声雪語・毒語缶・岳訓抄)

老兵は死なず 166。
ローマは一日にして成らず 110。
63・の年を迎えて 423。
ロックガーデンに階段はいらぬ 344。
六甲の岩場 178。
ロマンの山旅 400。
論より証拠 176。

わ…

若杉山 その他 370。
"へそのない山 385。
若丸山 228。
"冠峠から冠山を加えて 242。
鷲ヶ岳 295・301。

私の、秋山行 219。
私の、愛宕山行 269。
初夢 123。
比良山行 238。
山(30周年記念特集) 321。
山道具に地下足袋が、 383。

綿向山 20・43。

和田寺山と北山(三田) 419。

ワジビの谷の山 400。

割引岳、巻機山から谷川岳一ノ倉 421。

ワンドムツとクロカベ 338・341。

二部(山声雪語・毒語缶・特別寄稿など)

わが謝辞 188。

わが台高山脈縦走路に光栄 46。

若者の悦び(詩と譜) 103。

私たちの新人 58。

"をとらないでも 273。

私の体験記(肺水腫) 422。

"山旅 槇有恒著 193。

和と友情の勝利 332。

割り勘 127。

照願脚下で始め紀行に移って、目録と改称、ここに至った。そこで再び照願脚下すると、始めに見えなかったものが現れていた。例えば、みちのくの山、から早池峰山。岩手の山々、では東根山・黒森山・七時雨山・牛形山など。これらは補遺では済まされそうにない。こんどは山名事典風にして、次に来る京交山岳部創立五十周年記念に、編集してみたいものである。

1988.3.7

▲他山岳会の会報(受贈分)

3月号 青嶺、烏帽子(新宮山の会)

4月号 比良山岳、青嶺

5月号 北山、近畿山行、趣味の登山、比良山岳、京都山岳、木籬、一等三角点

その他 烏帽子(№130~№132)

例会報告

例会No	目的地	月 日	天候	担当者	参加者	記 事
1683	春山大会 恵那山	4月16日 ～17日		三橋 勉		中止しました。
1684	奥美濃 溪流釣	4月23日 ～25日		広瀬光太郎	(他2名)	昼は溪流釣、夜は釣果(いわな30ビキ)に舌つつみ。
1685	金糞岳	4月26日		大倉寛治郎		中止しました。
1686	龍門岳	4月29日	雨	大槻 雅弘		雨のため延期。

部 員 動 静

目的地	月 日	天候	参加者	記 事
北関東～ 東北の山旅	4月22日 ～5月2日		坂井 久光	(別稿詳報)
シコの谷頭	4月16日		伊藤 潤治	(別稿詳報)
養老山	4月17日		伊藤 潤治	(")
峰 山	4月24日		伊藤 潤治	(")
鴨瀬谷山	4月29日	雨	大槻雅弘、 三橋、奥村 津田	雨のため、龍門岳を急ぎ変更した。 (別稿詳報)

雑 報

▲5月の集会

出席者 本局 方山、井戸、井上、大槻(雅)
OB 横井、坂井、伊藤

11日 場所 厚生会館 4F

梅津 吉田
高速 大倉、岡田

以上 10名

内 容 例会報告、個人山行、その他

帆 布 ・ 漣 布
テント ・ シート
雨 合 羽
木村工業有限会社

京都市中京区ミズ車庫前
TEL 801 5331(代)
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321-0251

愛されるスポーツ店
京菱運動具店

本店 下京区大宮通松原上ル
TEL (801) 1331
十条店 南区竹田街道十条上ル東側
TEL (691) 8041
伏見店 伏見区白耆町西友ストア4F
TEL (623) 0824
山科店 山科区音羽野田町1番
西友ストア-山科店
TEL(592)9770 内線 228

一年中、山用品だけの
営業時間 プロショップ

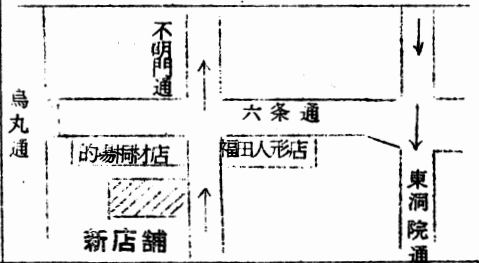
午前10時～午後1時と午後3時～午後8時
(午後1時～3時は閉店させていただきます)
<定休日> 火・水曜日

山・アウトドア プロショップ
ログ ケビン



京都市中京区御幸町通
硝薬師南入
(四條河原町・阪急河
原町より徒歩4分)

場所が変わりました。
新住所〒600 京都市下京区^{あけぞ}不明門通り
六条下る西側
(烏丸通りより1筋東の通り)
TEL 075-351-6598(代)
(株) 小林地 図 専門店



昭和63年6月1日


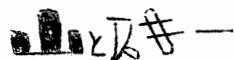
京都市 中京区壬生坊城町 48

京都市交通局内


京交山岳部



この用具の事なら  が一番です！
御来店ありがとうございます。
山とスキー レジャースポーツ ショップ
そして 
海の 
中・二条通河原町西 TEL 231-1202

HORIKE まかせて下さい…ネ
 

☆在庫豊富にとり揃えています。
☆山の道具は セヒ 御相談下さい。


山とスキー専門店
ビッグ 
河原町店 上・河原町通丸太町東入
TEL 222-0363

御婚礼
御引越  専門

きおん菊水運送株式会社
山科配車センター
京都市山科区西野山階町12-12
TEL (075) 581-3101
本社
東山区大和大路四条下ル 541-2345
奥川営業所
中京区室町二条上ル 256-3059

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター
厚生会指定
サンコークラフト
西島輝雄
左・川端丸太町下る下堤町 88
TEL (075) 771-3442

山とスキー用具専門店
株式会社 **ロッジ** 京都店

京都市中京区御池通高倉西入高宮町
(千代田生命京都御池ビル1F)
TEL (075) 255-0595

テニス
サイクル(自転車)
も取り扱っています。